

大使館情報

2023年4月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢
- (2) 経済政策等
- (3) 金融政策
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢（2023年3月の出来事）

【内政】

- (1) 新ボルサ・ファミリアに関する暫定措置令（MP）の発令
- (2) ボルソナーロ前大統領、サウジアラビア政府から贈呈品の受け取り
- (3) ルーラ政権支持率
- (4) 「より多くの医師プログラム」再開
- (5) 重要案件に関する暫定措置令（MP）の審議が再開
- (6) 伯、コロナウイルスによる死亡者が70万人を突破

【外交】

- (1) G20外相会合の-marginで伯露外相会談
- (2) ルーラ大統領、ゼレンスキー大統領とオンライン会議
- (3) アモリン大統領首席補佐官がベネズエラを訪問し、マドゥーロ大統領と会談
- (4) ルーラ大統領、ベニテス・パラグアイ大統領と会談
- (5) ルーラ大統領、ラマポーザ・南ア大統領と電話会談
- (6) ルーラ大統領、インフルエンザにより訪中延期
- (7) ルセフ元大統領、BRICSの新開発銀行総裁に選出
- (8) アモリン大統領首席補佐官、訪露

3. トピックス

- (1) 2023年国費留学生壮行レセプションの開催
- (2) 日本政府による「連邦区イタポアン地区保育所増設計画」への署名

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 在伯公館 SNS リンク一覧
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢（3月発表の経済指標）

- (ア) 1月の鉱工業生産指数は前月比▲0.3%、前年同月比+0.3%となった。
- (イ) 2月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+0.84%となった（前月：+0.53%）。直近12か月累計は+5.60%となり、前月（同+5.77%）から上昇幅は0.17%ポイント縮小した。
- (ウ) 失業率（2022年11月～2023年1月）は8.4%となり、3か月前（8～10月）の移動平均8.3%から0.1%ポイント上昇。また前年同期（2021年11月～2022年1月）の11.2%から2.8%ポイント低下した。
- (エ) 伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus調査）について、3月31日時点で、GDP成長率予測については、2023年は+0.90%（前週から変わらず）で、2024年は+1.48%（前週から0.08%ポイント上昇）となった。インフレ率については、2023年は5.96%（前週から0.03%ポイント上昇）で、2024年は4.13%（前週から変わらず）となった。

(2) 経済政策等

- (ア) アダッジ財務大臣は、3月13日、税制改革案（付加価値税の創設等）の議会承認について、6～7月に下院、9～10月に上院での承認を得るとの見通しを示した。
- (イ) 財務省は、3月30日、現行の歳出上限に替わって、歳出（政策的経費）の増加率の上限を、歳入（税収等）の前年比増加率の70%とする等の新たな財政運営枠組を発表した。また2026年までのプライマリーバランスの目標値も公表した。

(3) 金融政策

3月21日及び22日に開催された伯中央銀行金融政策委員会（Copom）において、政策金利であるSelic金利を13.75%に据え置くことが決定された。次回伯中央銀行金融政策委員会（Copom）は5月2日及び3日に開催予定。

(4) 為替市場（レートは伯中銀の公表値から算出）

- (ア) 3月の為替市場は5.08～5.30リアル/ドルで推移。
- (イ) 月の前半は5.14～5.30リアル/ドルで推移。新たな財政運営枠組に関する発言の他、米欧金融機関を巡る動向等を材料にして、概ね下落傾向で推移した。
- (ウ) 月の後半は5.08～5.29リアル/ドルで推移。米欧金融機関を巡る動向や、新たな財政運営枠組の内容等を材料に概ね上昇傾向で推移した。

(5) 株式市場

- (ア) 3月の株式市場は97,926～106,540ポイントで推移。
- (イ) 月の前半は102,675～106,540ポイントで推移。米欧金融機関を巡る動向等を材料に概ね下落傾向で推移した。

(ウ) 月の後半は 97,926~103,713 ポイントで推移。米欧金融機関を巡る動向の他、内外の金融政策の動向や新たな財政運営枠組等を材料に上下して推移した。

2. ブラジル政治情勢 (3月の出来事)

【内政】

(1) 新ボルサ・ファミリアに関する暫定措置令 (MP) の発令

「新ボルサ・ファミリア」に関する暫定措置令 (MP) に署名。これまで通り月 600 レアルが給付される他、6 歳以下の子供がいる家庭には一人当たり 150 レアル、7~18 歳の未成年者または妊婦のいる家庭には一人当たり 50 レアルが給付される。

(2) ボルソナーロ前大統領、サウジアラビア政府から贈呈品の受け取り

政府の公式文書によると、ボルソナーロ前大統領は、サウジアラビア政府から贈られた贈呈品 (男性用アクセサリーセット) を昨年 11 月 29 日に大統領公邸で受け取っていたことが判明した。連邦会計検査院 (TCU) は 9 日、ボルソナーロ前大統領に対し、調査が完了するまで、サウジアラビア政府から贈られた贈呈品 (男性用アクセサリーセット) の売却及び使用を禁止した。

(3) ルーラ政権支持率

Ipec 社が 3 月 2 日から 6 日にかけて 2 千人を対象に実施した世論調査によると、ルーラ政権に対する評価は「非常に良い/良い」41%、「普通」30%、「悪い/非常に悪い」24%となり、ボルソナーロ政権 (2019 年 3 月時点) の「非常に良い/良い」34%、「普通」34%、「悪い/非常に悪い」24%は上回ったが、過去のルーラ政権には及ばなかった (第 1 次ルーラ政権: 「非常に良い/良い」51%、第 2 次ルーラ政権: 「非常に良い/良い」49%)。

(4) 「より多くの医師プログラム」再開

ルーラ大統領は 20 日、「より多くの医師プログラム (Programa Mais Médicos)」の再開を発表した。同プログラムは、ルセフ政権で導入されたが、ボルソナーロ政権により廃止された。政府は、本年上半期に 5 千人の医師を募集して医療過疎地や貧困地域に派遣する。本年下半期には更に 1 万人を募集する予定。医師には月 1.28 万レアルの報酬と住宅手当が支給される。ルセフ政権では、同プログラムに応募した医師の大半がキューバ人であったことが批判されたところ、ルーラは「応募する医師が全員ブラジル人であることを望むが、応募者が足りなければ、外国人医師にも声をかける。重要なのは、患者がブラジル人であることで、医師の国籍ではない」と述べた。

(5) 重要案件に関する暫定措置令 (MP) の審議が再開

上院の各党院内総務は 23 日、暫定措置令 (MP) に関する上下両院合同委員会の再開を求めるレナン・カリエイロス上院議員 (MDB。上院外交国防委員長) の決議案を採択した。

現在、連邦議会では、13のMPが審議待ちとなっている。MPは、120日以内に議会から承認されないと失効する。リラ下院議長は27日、「各MP合同委員会の活動に期限を設けることをパシェコ上院議長に提案する。これが受け入れられなければ、審議待ちとなっているMPの内、省庁再編、ボルサ・ファミリア、住宅供給計画「Minha Casa, Minha Vida」等の重要案件の審議を進めるが、その他の案件については法案の形で再提出することで、行政府とは合意が成立している」と表明した。

(6) 伯、コロナウイルスによる死亡者が70万人を突破

保健省は28日、「先週、Covid-19による死亡者数の累積が700,239人に達した」と発表した。伯の死亡者数は、米国に次いで世界2位。最近は、Covid-19により死亡するのは、80歳以上の後期高齢者または免疫不全の患者が多い。

【外交】

(1) G20 外相会合のマージンで伯露外相会談

ヴィエイラ伯外相とラブロフ露外相は1日、G20外相会合と並行してバイ会談を行った。その際、ラブロフは、伯が先週の対ロ非難決議に賛成票を投じたことに理解を示し、ルーラ大統領が提案した調停案について検討していると述べた。会談は45分間に及び、その大部分は、ウクライナ紛争に関する互いの立場の説明に費やされた。伯側は、ロシアの侵攻は非難するが、対ロ制裁には反対との立場について説明し、中立国による調停を主張した。また、ラブロフは4月に訪伯することを確認した。

(2) ルーラ大統領、ゼレンスキー大統領とオンライン会議

ルーラ大統領は2日、ゼレンスキー・ウクライナ大統領とオンライン会議を行い、伯が国連の対ロ非難決議に賛成票を投じたことを強調しつつ、「伯は、各国と協議し、平和と対話を構築するための取組に参加することを望んでいる」と述べた。伯大統領筋は、「ルーラは、フランス、ドイツ及び米国との協議について触れ、中露とも協議を行う用意があると述べた。両首脳は、近い将来、再び意見交換を行うことで一致した」と述べた。

(3) アモリン大統領府首席補佐官がベネズエラを訪問し、マドゥーロ大統領と会談

アモリン大統領府首席補佐官（元外相）は8日、ベネズエラを訪問し、マドゥーロ大統領と会談を行った。ボルソナーロ政権下で悪化した二国間関係の修復が目的とされている。伯政府筋によると、在カラカス伯大使館及び領事館が活動を再開する運びとなっている。

(4) ルーラ大統領、ベニテス・パラグアイ大統領と会談

ルーラ大統領は16日、ベニテス・パラグアイ大統領と共に、イタイプー水力発電公社の伯側社長の就任式に出席した際、「自分（ルーラ）はメルコスールを強化するために大統領に返り咲いた。我々が団結すれば、交渉力を得られるが、バラバラでは弱体化する」と述べた。

(5) ルーラ大統領、ラマポーザ・南ア大統領と電話会談

ルーラ大統領は 21 日、ラマポーザ南アフリカ大統領と電話会談を行った後、「南アで開催される BRICS 首脳会議では、両国の関係回復を図りたい」とツイッターに投稿した。伯と南アは、ボルソナーロ政権下で関係が冷え込んだ。

(6) ルーラ大統領、インフルエンザにより訪中延期

ルーラ大統領は 25 日、訪中の延期を決定した。インフルエンザ A 型に感染後、肺炎を発症し、主治医は長期間のフライトを伴う外遊は無理と判断した。訪中の延期は、外交よりも内政に悪影響を及ぼすと見られている。伯側は、中国がルーラ訪中の早期実現に関心を抱いていると期待している。他方、ルーラは、モロコシ上院議員の暗殺計画に関して「モロコシの狂言」等と批判したことにより、SNS 上で反発を買っており、政府は、訪中の成果を利用して批判を打ち消そうとしていたが、この目論見は崩れ去った。また、政府は、歳出上限 (teto de gastos) に代わる新たな財政再建化策の発表を訪中後に先送りしたが、延期により、これ以上、時間稼ぎするのが難しくなった。

(7) ルセフ元大統領、BRICSの新開発銀行総裁に選出

24 日、BRICS の新開発銀行 (NDB) の総裁に伯のルセフ元大統領 (PT) が選出された。任期は 2025 年 7 月までで、年収は 50 万米ドル。ルセフが公的機関の役職に就くのは、2016 年の弾劾以来、初めてのことである。これにより、ルセフを何らかの「名誉職」に就かせるという、ルーラが目論見は成就したことになる。

(8) アモリン大統領府首席補佐官、訪露

アモリン大統領府首席特別補佐官は、ルーラ大統領の指示により訪露し、プーチン露大統領と約 1 時間に亘ってウクライナ紛争及び二国間関係 (肥料の輸入等) について意見交換を行った。アモリンは、ラブロフ露外相とも会談。その際、同外相が 4 月 17 日に訪伯することが確認された。

3. トピックス

(1) 2023 年国費留学生壮行レセプションの開催

3月2日、林大使は公邸において2023年国費留学生壮行レセプションを開催。レセプションには、新たな国費留学生に加え、ブラジル元国費留学生同窓会（ABRAEX）幹部、元国費留学生、ブラジル大学日本語コースおよびブラジル日本語モデル校の日本語教師が参加。林大使は、国費留学生にお祝いの言葉を述べるとともに、国費留学生が日本の名門大学で学ぶ機会を得て、両国の関係をさらに強固なものにしてほしいとの思いを強調した。



レセプションの様子



出席者の皆様と

(2) 日本政府による「連邦区イタポアン地区保育所増設計画」への署名

3月14日、ブラジル・ポズィチヴァ協会（以降 APB）にて、日本政府による令和4年度対ブラジル草の根・人間の安全保障無償資金協力「連邦区イタポアン地区保育所増設計画」の署名式が行われた。供与金は保育室等の施設増築に使用され、待機児童の解消に貢献することとなる。式典での挨拶において、高野公使は、「教育は国の発展の柱であり、このプロジェクトを通してブラジルの未来を担う子ども達がよりよい教育を受けられることを願っている」と挨拶。リマ・APB 会長からは、「イタポアン地区は若い世帯が多いため出生率が増加傾向にあり、ブラジル政府の対応が追いついていないのが現状である。このような状況における日本政府の支援に心から感謝している」と述べた。来賓のパシ地区長は「イタポアン地区は連邦区内で一人あたりの収入が最も低く、日本の支援が本地域の状況改善の一助となることに心から敬意を表する」と述べ、ファルカン地区教育担当は「日本政府がブラジルで以前から教育支援を行っていることは存じ上げており、本地域の待機児童が増加する中、APB と日本政府によって問題解決がなされることに敬意を表する」と述べた。



署名された契約書



集まった保護者・地域住民の皆様

4. 大使館からのお知らせ

(1) 在伯公館 SNS リンク一覧

在ブラジル大使館をはじめ各総領事館及び領事事務所では、SNS にて文化イベントを含め最新情報等を随時更新しています（以下リンク先をご参照ください）。

在ブラジル大使館 : [facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)
在ベレン領事事務所 : [facebook](#)
在マナウス総領事館 : [facebook](#)
在レシフェ総領事館 : [facebook](#) [instagram](#)
在リオデジャネイロ総領事館 : [facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)
在サンパウロ総領事館 : [facebook](#) [YouTube](#)
在クリチバ総領事館 : [facebook](#) [Instagram](#) [YouTube](#)

(2) 外務省 海外安全ホームページ

(ア) 各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開しています。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(イ) 各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開しています。在伯大使館の情報（令和4年度第3四半期）は以下のリンク先から。

https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html

(ウ) 各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き ブラジル」を作成し公開しています。

https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html

(3) ブラジル渡航情報

(ア) 危険情報・感染症危険情報

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsposhazardinfo_259.html

●危険情報

最新更新日：2022年4月5日

以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっています。

- ・ブラジリア連邦区
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏
- ・アマゾナス州大マナウス圏
- ・ロライマ州北部
- ・パラ州大ベレン圏
- ・ペルナンブーコ州大レシフェ圏

- ・バイーア州大サルバドール圏
- ・セアラ州大フォルタレーザ圏
- ・パラナ州大クリチバ圏
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

●感染症危険情報

最新更新日：2022年10月19日

感染症危険情報レベルを更新し、全世界を一律レベル1（十分注意してください）に見直しました。

(イ) 安全対策基礎データ

最新更新日：2022年8月1日

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連絡先を公開しています。

(ウ) テロ・誘拐情勢

最新更新日：2022年8月2日

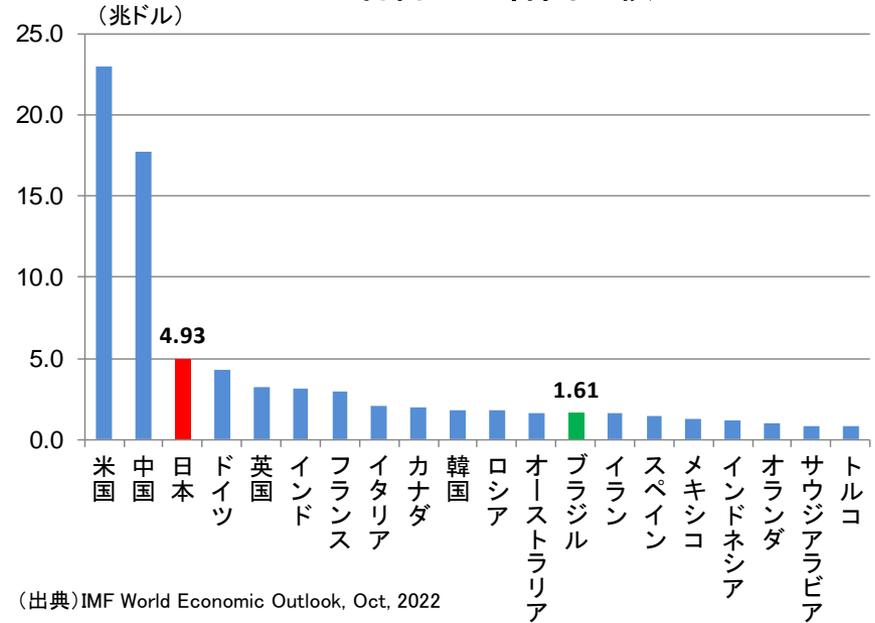
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html

ブラジル経済・二国間経済関係概観

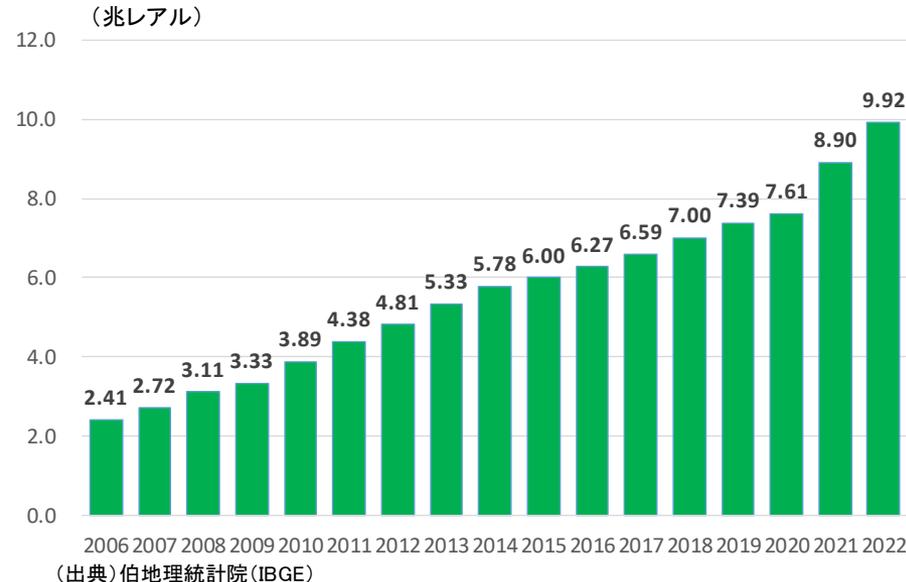
1. 経済構造

1. 人口約2億1,331万人、面積約851万km²(2021年)
2. 世界第13位の経済規模(名目GDP約1兆6,081億ドル(2021年):日本の約33%)。一人当たりGDP(約7,564ドル(2021年))は、日本の約19%。
3. 世界有数の農業・資源国であるが、産業別国内総生産(GDP)額では第三次産業(サービス業)が高いウェイトを占めている。
4. GDPを需要項目別でみると、家計消費や総固定資本形成(投資)といった内需が成長に寄与している。

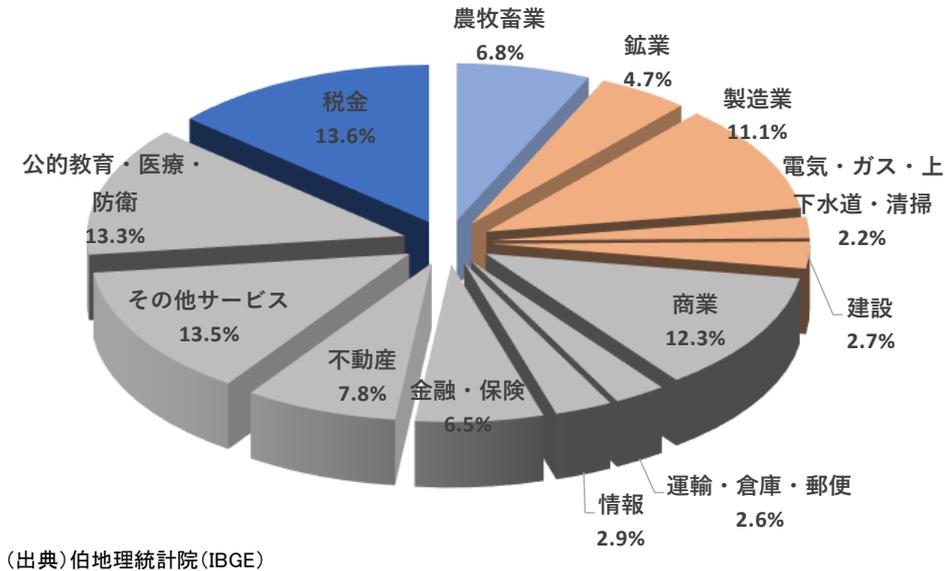
名目GDP各国比較



名目GDPの推移



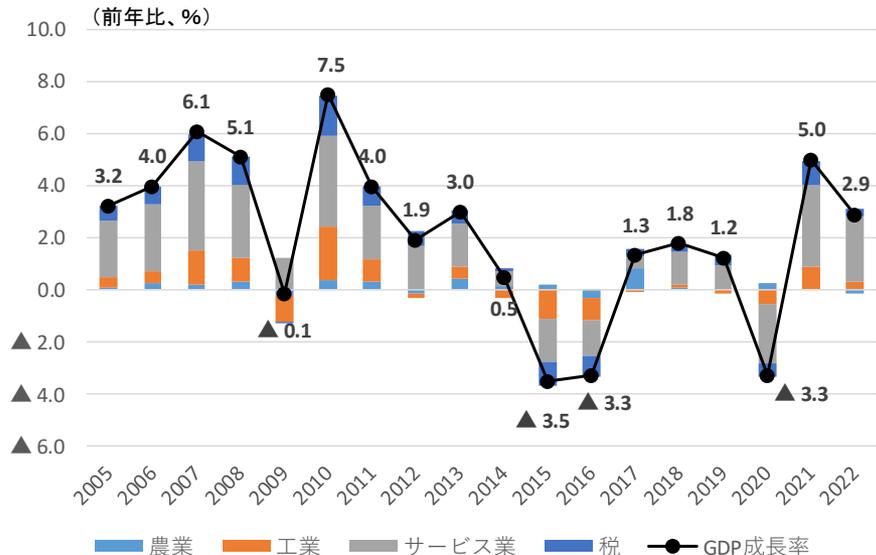
名目GDPの産業別構成比(2022年)



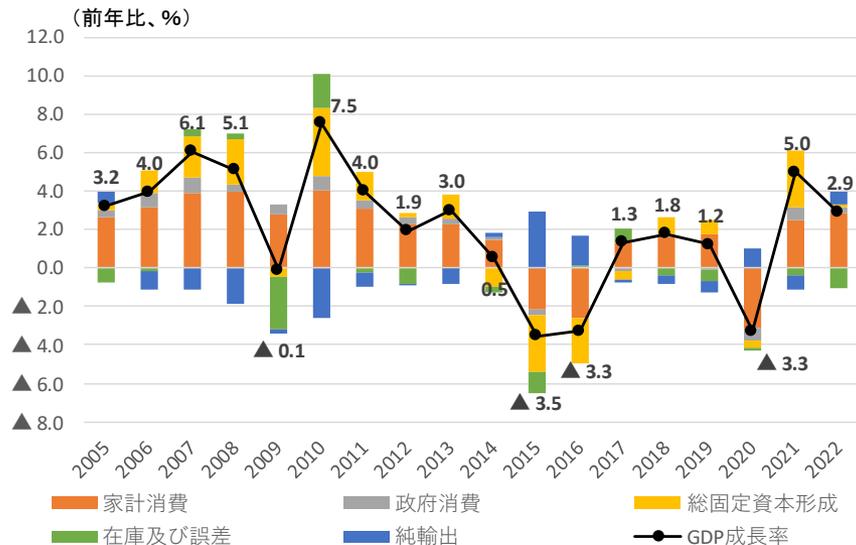
II. 経済の現状

ブラジル地理統計院(IBGE)が2023年3月に発表した2022年の実質GDP成長率は前年比+2.9%となった。同年第4四半期では、前期比▲0.2%(6四半期ぶりのマイナス)、前年同期比+1.9%(8四半期連続のプラス)となった。

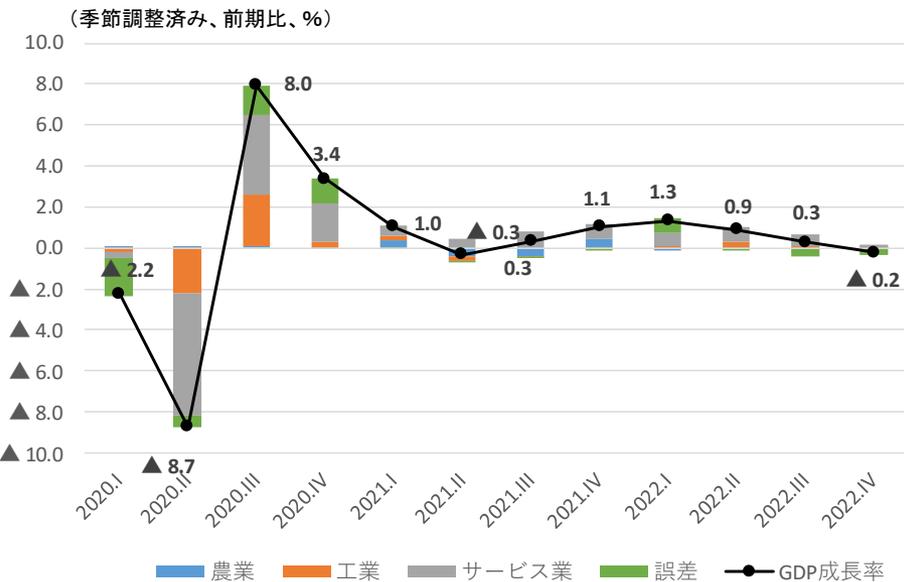
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(暦年)



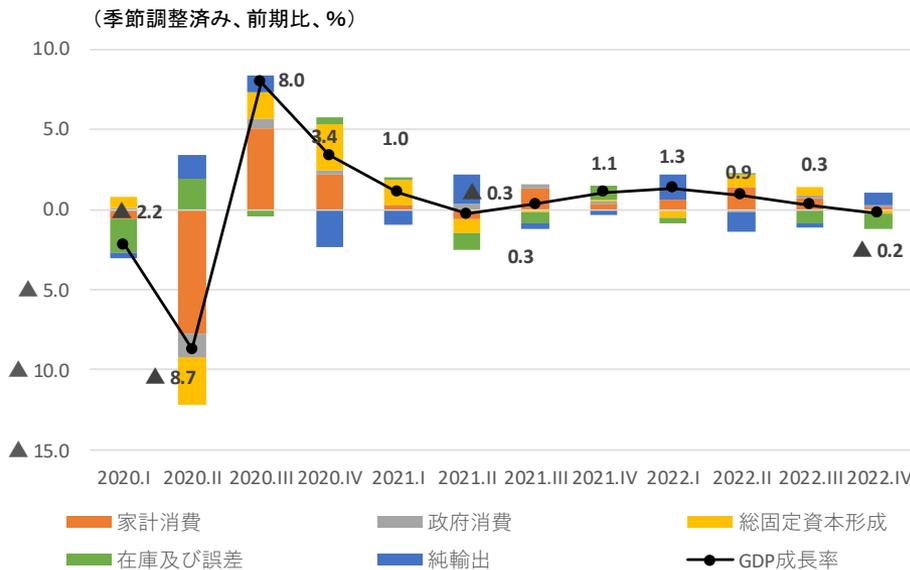
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(暦年)



実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)



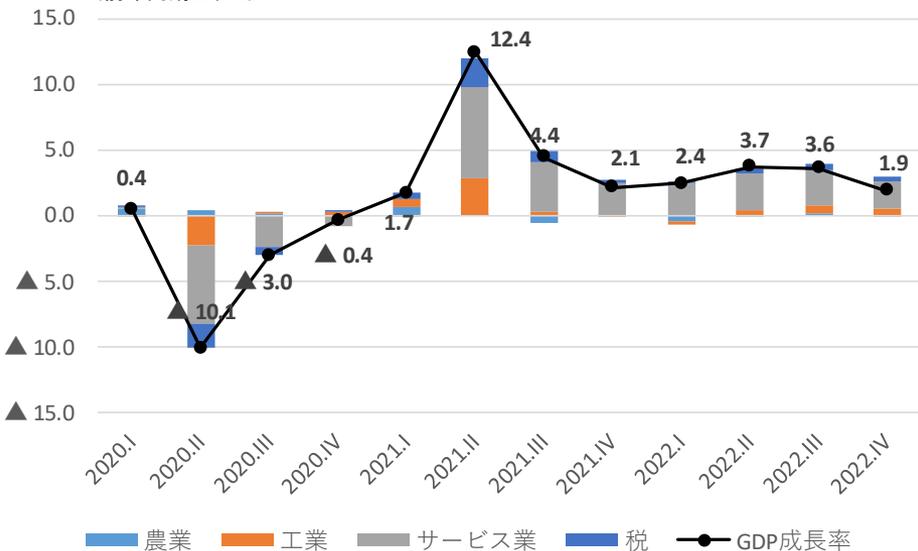
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「誤差」、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典) 伯地理統計院(IBGE) 2

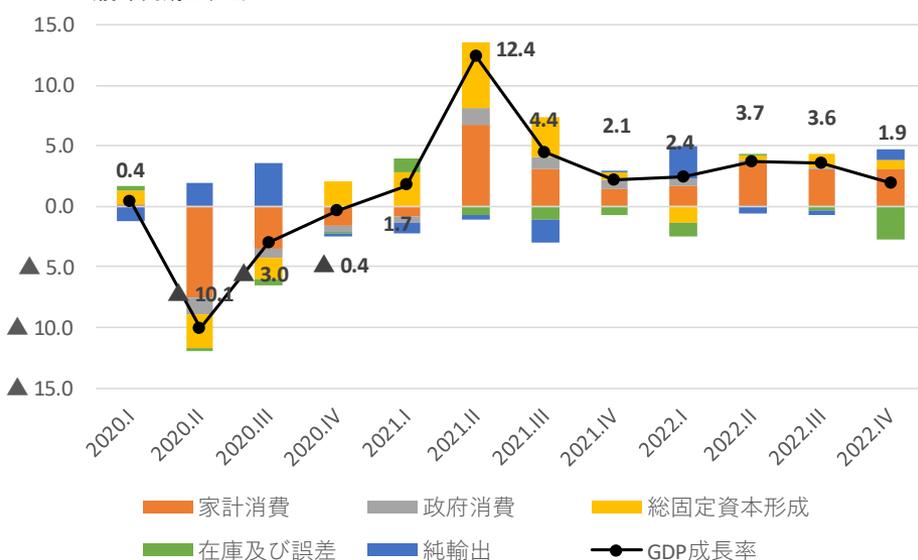
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)

(前年同期比、%)



実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)

(前年同期比、%)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典)伯地理統計院(IBGE)

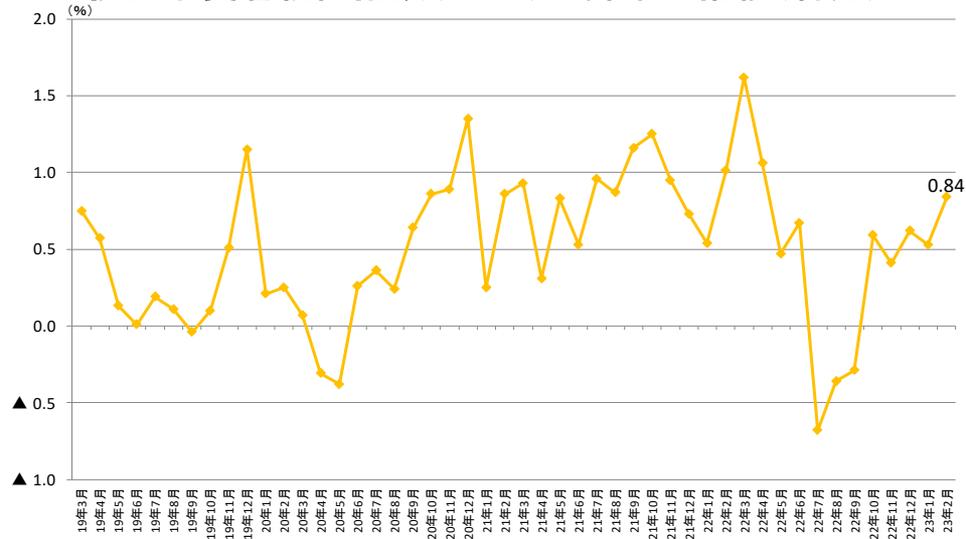
《各機関によるGDP成長率見通し》

	2023	2024
IMF (2023年1月)	+1.2%	+1.5%
伯財務省 (2023年3月)	+1.6%	+2.3%
伯中銀 (2023年3月)	+1.2%	-
伯中銀Focus (2023年3月31日)	+0.90%	+1.48%

物価の動向と政策金利

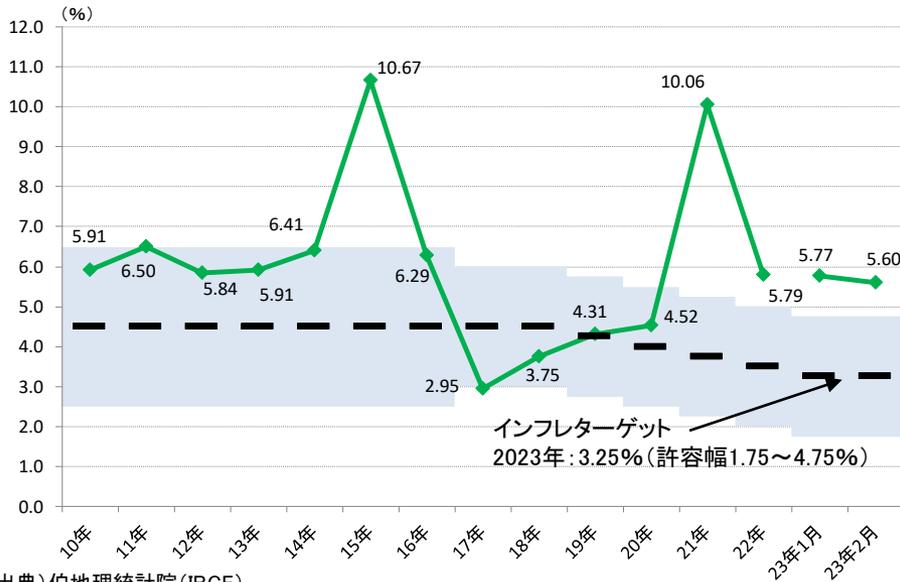
2月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前月比+0.84%、直近12か月累計では5.60%となった。

拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(各月)



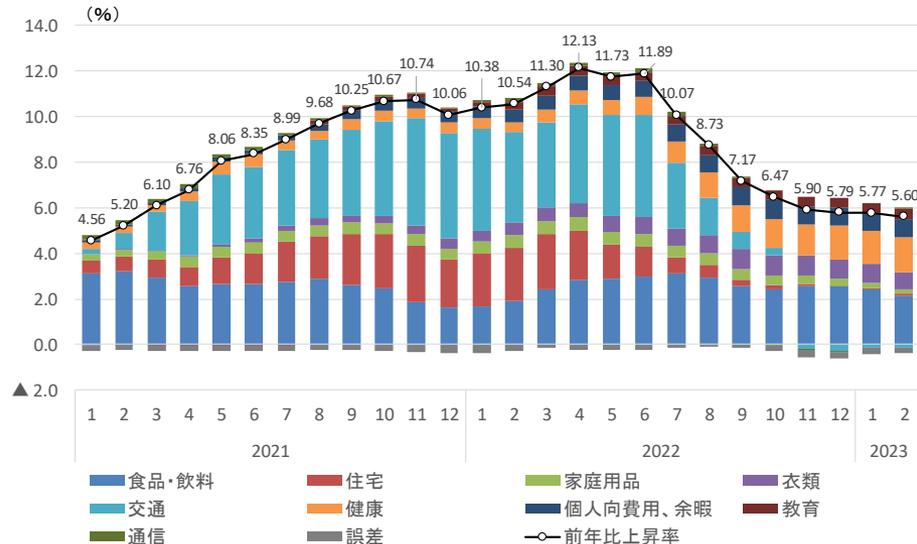
(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(12か月累計)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

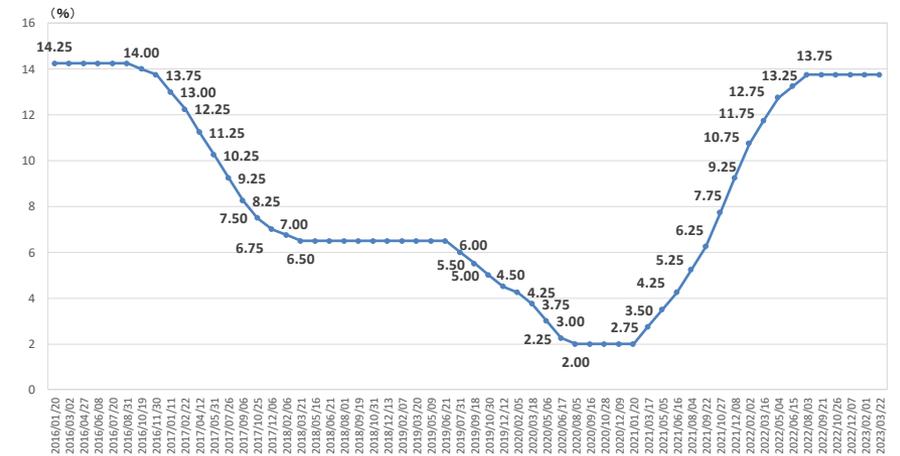
拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の項目別寄与度



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

政策金利の推移(2016年～)

3月21日及び22日に開催された伯中央銀行金融政策委員会(Copom)において、政策金利であるSelic金利を13.75%に据え置くことが決定された。次回会合は5月2日及び3日に開催予定。

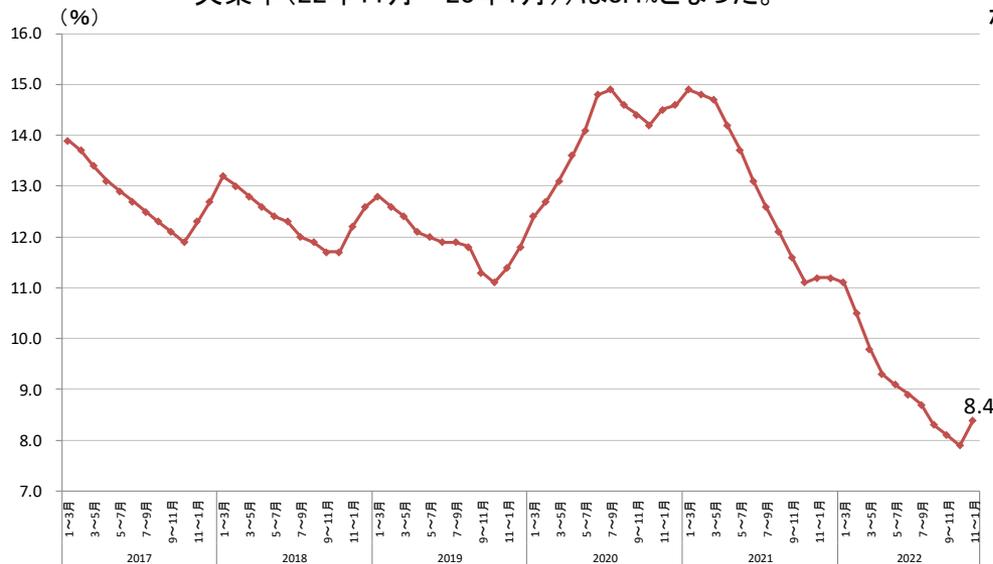


(出典) BCB 4

労働市場、消費、生産、財政収支の動向

失業率の推移(3か月移動平均)

失業率(22年11月~23年1月)は8.4%となった。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

鉱工業生産指数の推移(月次)

鉱工業生産(1月)は前月比▲0.3%、前年同月比+0.3%となった。

(2012年=100、季調済)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

小売・サービス売上高指数の推移(月次) ※2023年3月の公表なし

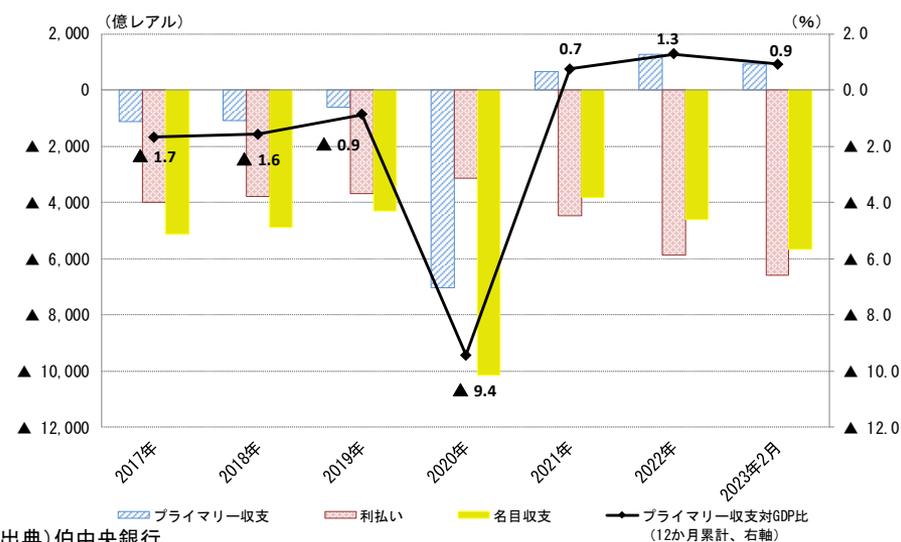
小売売上高(12月)は前月比▲2.6%、前年同月比+0.4%となった。2022年では前年比+1.0%。サービス売上高(12月)は前月比+3.1%、前年同月比+6.0%となった。2022年では前年比+8.3%。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

財政収支の推移(12か月累計)

公的部門の2023年2月のプライマリーバランスは932億レアルの黒字、利払いは▲6,591億レアル、名目収支は▲5,659億レアルとなった。



(出典) 伯中央銀行

国際収支の動向

国際収支

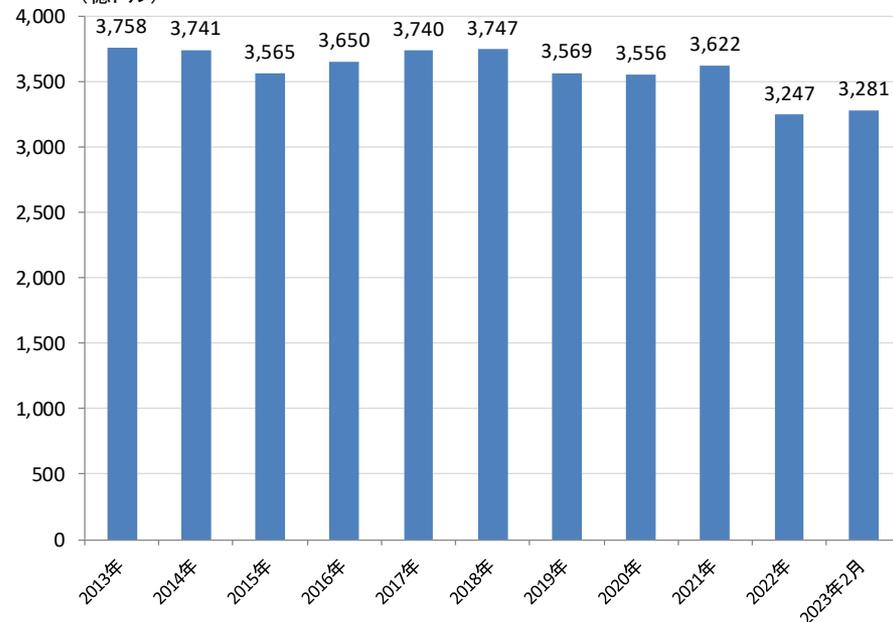
(億ドル)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 2月
経常収支	▲ 515	▲ 650	▲ 245	▲ 464	▲ 561	▲ 119
貿易収支	434	265	324	364	442	34
サービス収支	▲ 360	▲ 355	▲ 209	▲ 270	▲ 400	▲ 43
第1次所得収支	▲ 588	▲ 573	▲ 383	▲ 590	▲ 640	▲ 112
第2次所得収支	▲ 0	12	23	32	38	2
資本移転収支	4	4	41	2	2	1
金融収支	▲ 523	▲ 644	▲ 125	▲ 502	▲ 574	▲ 123
直接投資	▲ 761	▲ 464	▲ 413	▲ 302	▲ 599	▲ 78
対外直接投資	20	228	▲ 35	162	307	55
対内直接投資	782	692	378	464	906	133
証券投資	69	192	129	▲ 79	41	▲ 38
金融派生商品	28	17	54	▲ 10	▲ 20	▲ 2
その他投資	113	▲ 128	247	▲ 251	78	▲ 47

(出典) 伯中央銀行

外貨準備高

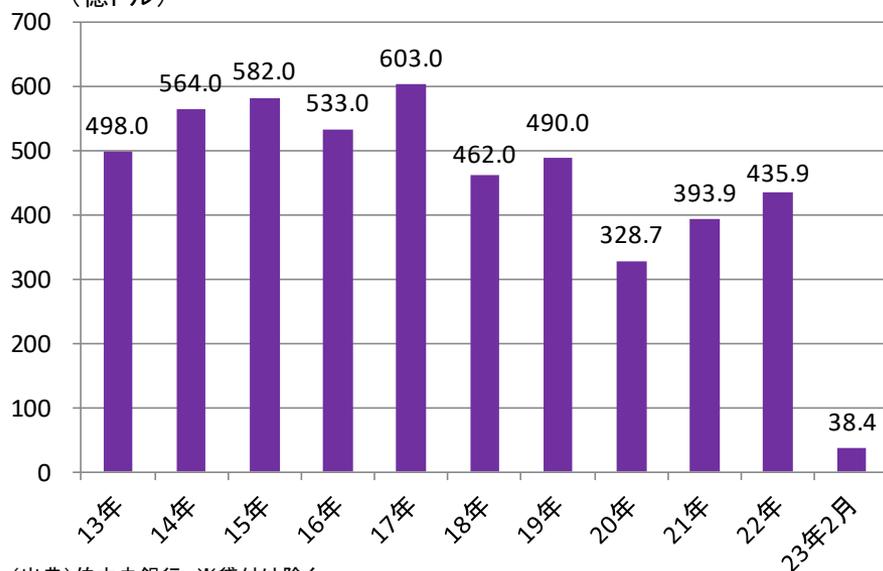
(億ドル)



(出典) 伯中央銀行

外国直接投資(資本参加分)流入額

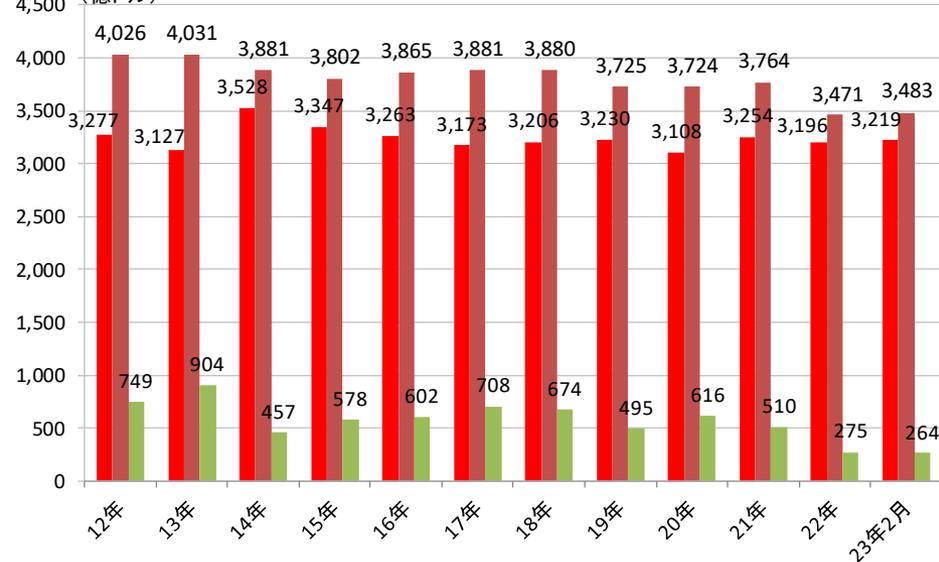
(億ドル)



(出典) 伯中央銀行 ※貸付は除く

対外債務・債権収支

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行

■ 対外債務残高 ■ 対外債権残高 ■ 対外債務・債権収支

為替・株価の推移

3月の為替市場は5.08～5.30レアル/ドルで推移。

月の前半は5.14～5.30レアル/ドルで推移。新たな財政運営枠組に関する発言の他、米欧金融機関を巡る動向等を材料にして、概ね下落傾向で推移した。

月の後半は5.08～5.29レアル/ドルで推移。米欧金融機関を巡る動向や、新たな財政運営枠組の内容等を材料に概ね上昇傾向で推移した。

為替の推移(対米ドル)

(1米ドル=レアル)



(出典) 伯中央銀行

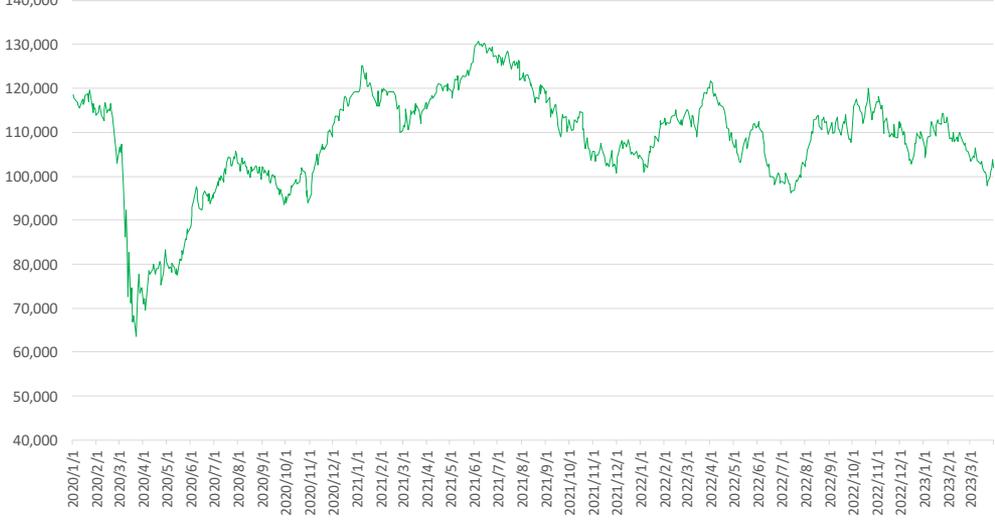
3月の株式市場は97,926～106,540ポイントで推移。

月の前半は102,675～106,540ポイントで推移。米欧金融機関を巡る動向等を材料に概ね下落傾向で推移した。

月の後半は97,926～103,713ポイントで推移。米欧金融機関を巡る動向の他、内外の金融政策の動向や新たな財政運営枠組等を材料に上下して推移した。

株価指数(Ibovespa)の推移

(ポイント)



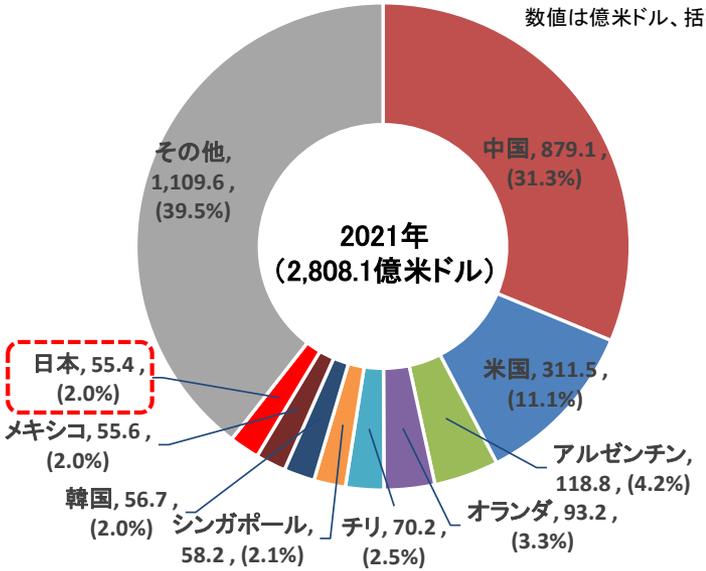
(出典) B3 7

Ⅲ. 貿易動向

ブラジルの貿易は、輸出、輸入ともに中国、米国、アルゼンチンが上位に占めている。2022年においては、日本は貿易相手国として輸出で9位、輸入で10位となっている。

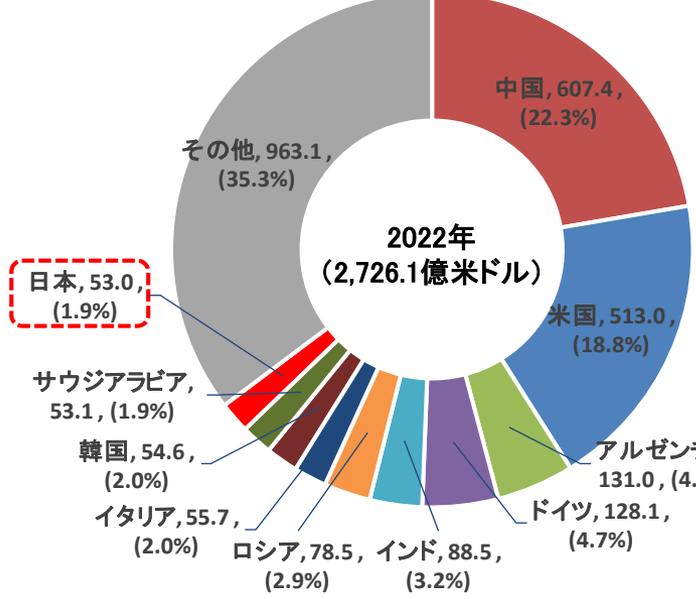
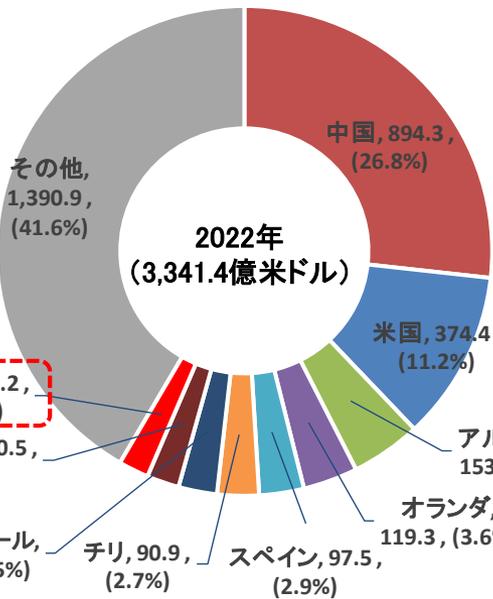
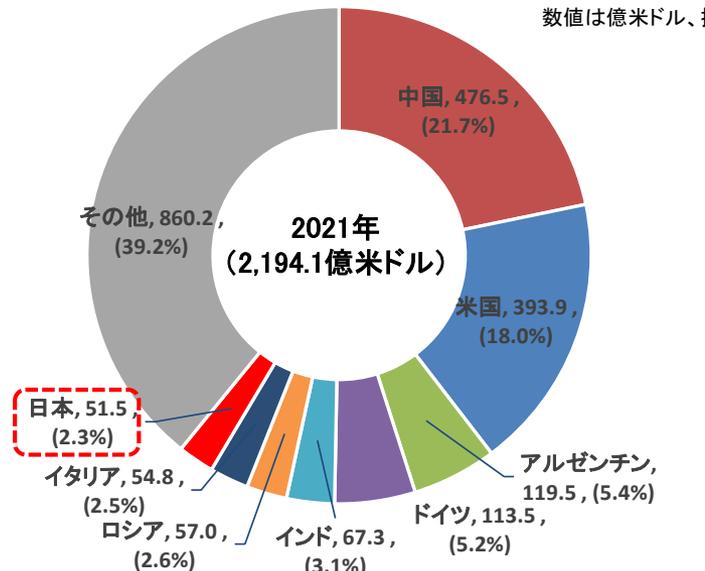
輸出額と構成比(国別)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



輸入額と構成比(国別)

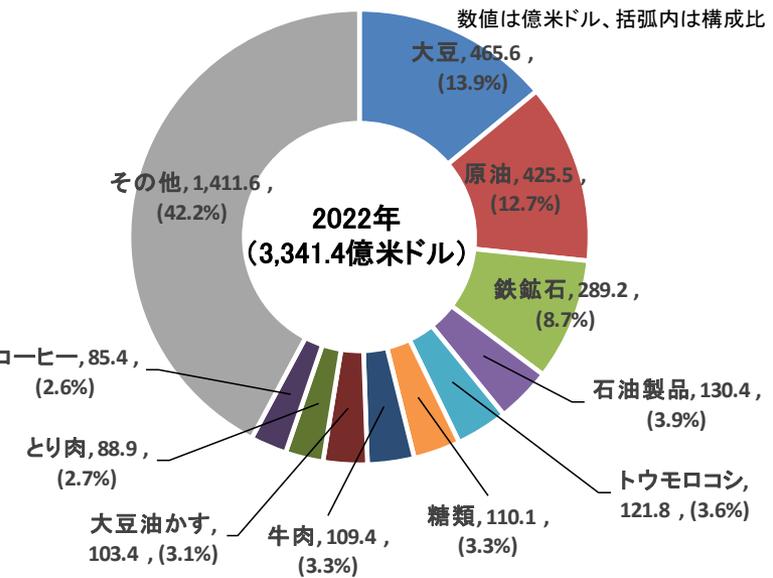
数値は億米ドル、括弧内は構成比



(出典) MDIC
※数値は2023年3月時点の公表値から算出

主要輸出品目は資源(原油、鉄鉱石等)、食品(大豆、トウモロコシ、糖類、肉類等)。主要輸入品目は石油製品、肥料、自動車部分品を中心に、電気機器など幅広い品目にわたっている。

ブラジルの主要輸出品目と主要相手国



【大豆】

	億米ドル	構成比(%)
全体	465.6	100.0
① 中国	317.8	68.3
② スペイン	19.4	4.2
③ タイ	16.8	3.6
④ イラン	13.5	2.9
⑤ オランダ	11.3	2.4

【原油】

	億米ドル	構成比(%)
全体	425.5	100.0
① 中国	165.3	38.8
② 米国	50.6	11.9
③ スペイン	35.7	8.4
④ チリ	31.3	7.4
⑤ ポルトガル	25.3	5.9

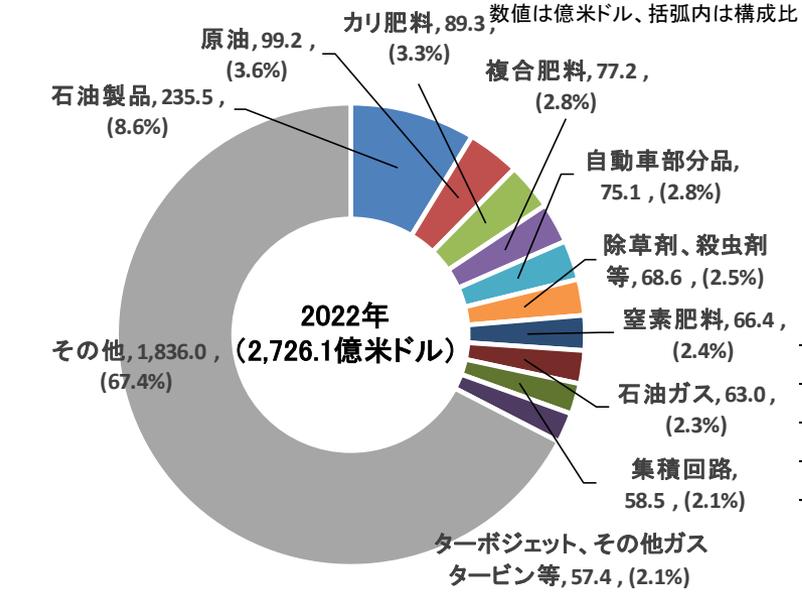
【鉄鉱石】

	億米ドル	構成比(%)
全体	289.2	100.0
① 中国	181.9	62.9
② マレーシア	15.2	5.3
③ バーレーン	13.3	4.6
④ 日本	11.0	3.8
⑤ 韓国	8.6	3.0

【石油製品】

	億米ドル	構成比(%)
全体	130.4	100.0
① シンガポール	58.6	44.9
② オランダ	8.8	6.8
③ 米国	4.9	3.8
④ ヴァージン諸島	4.8	3.7
⑤ パナマ	4.7	3.6

ブラジルの主要輸入品目と主要相手国



【石油製品】

	億米ドル	構成比(%)
合計	235.5	100.0
米国	127.9	54.3
インド	25.9	11.0
UAE	22.4	9.5
オランダ	11.7	5.0
ロシア	11.1	4.7

【原油】

	億米ドル	構成比(%)
合計	99.2	100.0
① サウジアラビア	32.0	32.3
② 米国	30.0	30.3
③ UAE	11.9	12.0
④ オランダ	5.8	5.9
⑤ ロシア	5.7	5.7

【カリ肥料】

	億米ドル	構成比(%)
合計	90.7	100.0
① カナダ	37.1	40.9
② ロシア	24.3	26.8
③ イスラエル	8.7	9.6
④ ドイツ	8.4	9.3
⑤ ベラルーシ	3.6	4.0

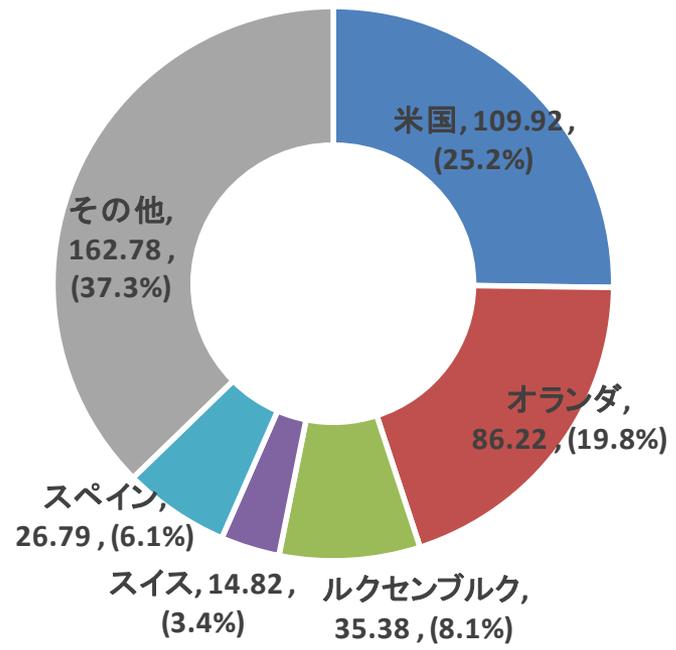
【複合肥料】

	億米ドル	構成比(%)
合計	77.2	100.0
① ロシア	22.4	29.0
② 米国	14.8	19.2
③ モロッコ	13.3	17.2
④ 中国	8.0	10.3
⑤ サウジアラビア	7.2	9.3

IV. 日伯投資

対ブラジル直接投資(資本参加分)の国別構成比 総額435.9億ドル(2022年)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



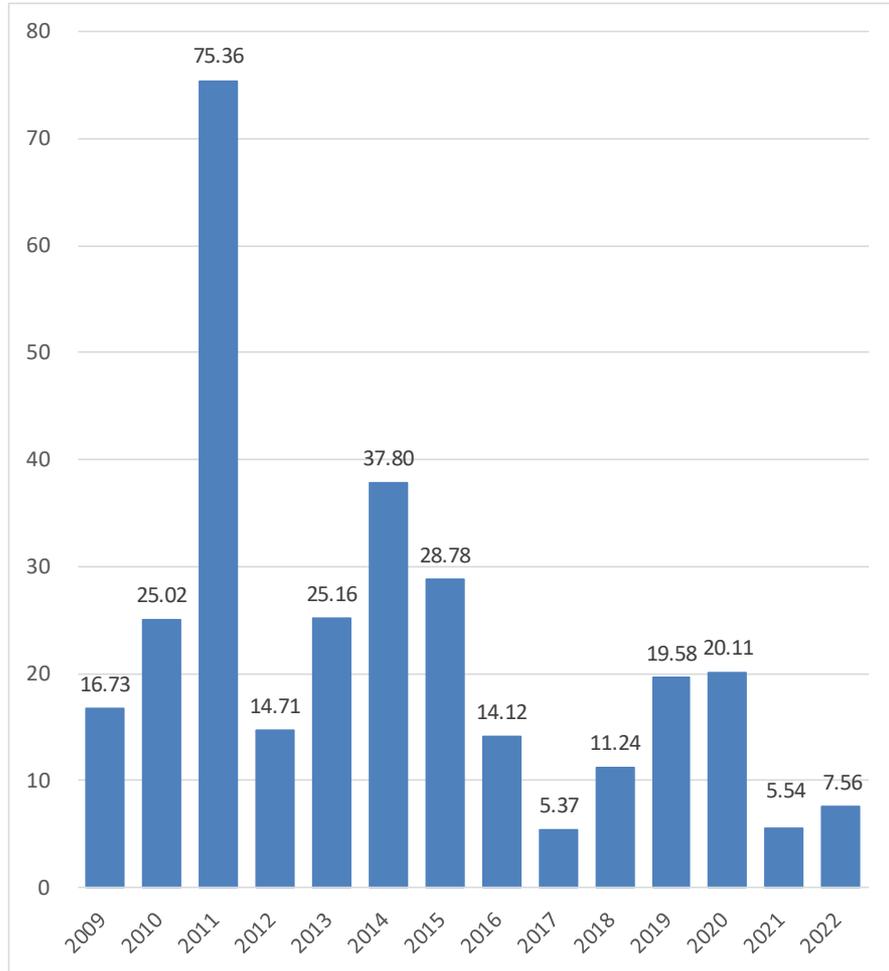
(出典) 伯中央銀行

2022年の日本の直接投資額(資本参加分)は7.56億ドルで構成比は1.73%と、10番目の規模。

※ 中国:0.35億ドル(0.08%)。但し、第三国経由の投資額が含まれていないため、実際よりも少ない数値となっている。

日本の対ブラジル直接投資(資本参加分)の推移

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行